



ジョイントリサイタル ”愛って何？”

エロイーズ・マス メゾ・ソプラノ  
 ニコライ・ギノフ バロックチェロ  
 小川麻子 チェンバロ&ピアノ

ヨーロッパで活躍中の3人のアーティストが  
 時代と国境を越えた愛の喜怒哀楽を奏でる。

去年マルセイユのオペラ座で  
 カルメン役を歌った  
 主目のメゾ・ソプラノ、エロイーズ・マスの  
 日本デビュー！

前半はバロック様式、  
 後半は印象派からジャズ風味の歌曲など、  
 ユニークでお洒落なプログラムを  
 お楽しみ下さい！



名古屋公演  
 2024年8月29日(木)  
 18:00開場 18:30開演  
 名古屋伏見  
 電気文化会館ザ・コンサートホール  
 入場料:  
 前売り4500円 当日5000円

東京公演  
 2024年8月31日(土)  
 2024年9月 1日(日)  
 16:30開場 17:00開演  
 東京都世田谷区岡本2-32-15  
 松本記念音楽迎賓館  
 Tel. 03-3709-5951  
 入場料 5000円

主催:(有)オーディオロマネスク、オーディオロマネスク関西  
 問合せ先:Mail. ma-yapeun-317811@sala.dti.ne.jp、Tel. 090-1109-2606

協賛:  
 木村良夫法律事務所、 ローテル商事(株)、 (有)ゾルゾ、 ㈱東洋工務店  
 音響防音専門(株)KOTOBUKI、 蒲郡ジャズ協会、 carata\*cembaro  
 医療法人 鉄友会 宇野病院  
 後援:  
 クラヴサン工房アダチ

## ジョイント・リサイタル ”愛って何？”

### 演奏曲目

ヴィヴァルディ作曲	アリア 『この喜びをもって会おう』
ヘンデル作曲	チェンバロ組曲2番
ヘンデル作曲	カンタータ 『ラ・ルクレチア』
ヴィヴァルディ作曲	チェロソナタ
ヘンデル作曲	パサカリヤ (チェンバロ組曲7番より)
**休憩**	
ドビュッシー作曲	歌曲集『ビリティスの歌』
ビゼー作曲	ノクターン ピアノソロ
	カルメンより『セギディーリャ』『ジブシーの歌』
サマー 作曲	Julie-O チェロソロ
ブリテン作曲	歌曲集 キャバレーソング

### 演奏者紹介

**エロイーズ・マス**は今フランスで大変注目されているメゾソプラノ歌手である。

アダミ (フランスのアーティスト支援団体) よりヤング・アーティスト・ディスクアヴァリーに入選。イギリスの国際ヘンデル声楽コンペティションで入賞し、ローレンス・カミングス指揮でロンドン・ヘンデル・プレーヤーと、”アナクロニスティック・ハート”のソロアルバムを収録。ヘンデル・フェスティバル演奏会シリーズに出演。2018年にはベルギーのエリザベート王妃国際コンクールで入賞。BNP Paribas より演奏会ツアーを授与、伴奏者小川麻子と共にベルギー各地で演奏する。これまでに数々のオペラ座の公演で主役として出演し、好評を得る。主なものに、ジュネーブ・グランドシアター (ジュネーブ・オペラ座) における、カルメン役、ワルキューレ役、マルセイユ・オペラ座のカルメン役、エクセン・ブヴァンス国際音楽祭のヴォチェック役、リヨン・オペラ座のプロッタ役 (オペラ青髭)、ローザンヌ・オペラ座とテュール・オペラ座のシャロット役 (ウェルテル) などがある。今後もマルセイユ・オペラ座、リヨン・オペラ座での公演への出演や、ルクセンブルク・フィルハーモニーとの共演などが予定されている。近年はカンヌ音楽祭にてカンヌ・オーケストラと共演し、カルメンのアリアなどを歌い、フランス全土、ヨーロッパのテレビにて放映された。その他、ブリュッセルフィルハーモニーや、ルクセンブルクフィルハーモニーなどのオーケストラと、ソリストとして共演してきた。

**ニコライ・ギノフ**はバロック&クラシカルチェロ、ヴィオラ・ダ・ガンバ ベースヴァイオリン、モダンチェロと幅広い分野で活躍するチェリスト。ブルガリア、プロディフ市出身。ソフィア音楽院修士課程を優秀な成績で卒業後渡英。英国ギルドホール音楽院で、修士号取得、シュツットガルト音楽大学で、弦楽四重奏のソリストコースを優秀な成績で終了。ブルガリア・ラジオ放送やテレビなどに出演。これまでにドイツ、オーベルスドルフ国際音楽祭、カナダ、バンフ国際音楽祭などで弦楽四重奏団やピアノトリオ・フロイデと共に演奏。ロンドン・シューベルトプレイヤーと、ヨーロッパの演奏会シリーズに出演。2005年に英国音楽院古楽科にピーター・レ・ハール奨学金を得てバロックチェリストとして入学し、2006年にレヴェーム賞を、2008年に終了演奏会最優秀賞であるジョン・マックアスラン賞と特別賞ディプロマを得て首席で卒業。その後英国各地で、アンサンブルやソロ、通奏低音で活躍。また、オーケストラ・オブ・エイジ・オブ・エンライトメントのメンバーとして、英国、ヨーロッパ各地でツアーやプロムス音楽祭などに出演。サイモン・ラトル、ヴラディミール・ユロスキー、ローレンス・カミングスなどの指揮達と共演。

**小川麻子**はイギリスを中心に活躍する今日最も多様性に富むロンドン在住の鍵盤奏者。

チェンバロ、フォルテピアノ、モダンピアノを弾き分け、ソロ、通奏低音、伴奏、室内楽の多方面において演奏活動を行う。英国ギルドホール音楽院にてバロックレパートリー・コーチを近年まで担当し、伴奏スタッフを務める。チェンバロ奏者として、2018年に「バッハのゴルトベルク変奏曲全曲を、2020年に「バッハの6つのパルティータ全曲アルバム」をFirst Hand Recordsレーベルよりリリース。BBC Magazineとインディペンデント紙より4つ星の高評価を得た。2023年に「ヘンデルの8つの組曲集」を同レーベルよりリリース。BBC Magazineより5つ星の高評価を、英国グラモフォン誌、USAファンファーレ誌、日本の山野楽器などからも絶賛された。ギルドホール音楽院古楽科にて、ニコラス・パールとジェームス・ジョンストンにチェンバロを師事。ポストグラデュエイト・ディプロマ取得、フェローシップ授与。その他ボブ・ヴァン・アスペレン、コリン・ティルニー、ローレンス・カミングスに師事。フォルテピアノをスティーヴン・ディヴァインに師事。岐阜県岐阜市出身、岐阜県立岐阜高等学校卒業。お茶の水女子大学文教育学部、音楽科演奏家コースにて学士号を取得後、渡英。トリニティカレッジ・オブ・ミュージック・ロンドンでピアノ専攻で修士とポストグラデュエイト・ディプロマを優秀な成績で取得。数々の伴奏賞を受賞。ギルドホール音楽院にて伴奏、室内楽で修士号とポストグラデュエイト・ディプロマを優秀な成績で取得。サー・ヘンリー・リチャードソン伴奏賞を受賞。フロイデ・ピアノトリオを結成し、カナダのバンフ国際音楽祭、プルシア・コーヴ国際音楽セミナーなどに招かれる。また、リヨン・国際室内楽コンクール、オーストリアのブラームス・国際室内楽コンペティションにてセミファイナリストとなる。これまでにピアノ伴奏者として様々な国際コンクール、音楽祭などに招かれ活躍してきた。英国にてピアノソロを、ニーナ・セレダ、ローナン・オホラに師事。室内楽、伴奏法をジョン・ヨーク、イアン・バーンサイド、ロビン・ボーマンに師事。日本ではピアノを矢島紀代子、矢島 勝、故黒川ちとし、故遠藤秀一郎、真下良子に師事。